

シラバス参照

| | | |
|-----------------|--|--|
| 科目名 | 教育の方法と技術(R5認定通信) | |
| 学習方法 | テスト | |
| 単位数 | 2 | |
| 専攻・コース | 幼稚園教諭免許法認定通信教育 | |
| 履修年次 | - | |
| 科目担当者 | 松田 こそえ | |
| スクーリング担当者 | - | |
| メディア授業担当者 | - | |
| レポート添削担当者 | - | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 4. 幼児期の特性を理解し、環境を通して行う教育、遊びを通しての総合的な指導の方法と実践を理解する。 5. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解し、小学校との接続に活かすことができる。 6. 幼児理解に基づいた計画・評価の実施について理解し、自身または勤務園の課題を示すことができる。 7. 幼児期の特性に応じた「主体的・対話的で深い学び」のための教育の方法を身に付ける。 | |
| 授業計画 | <p>第1部「教育の方法論とはどのようなものか」</p> <p>第1章 教育方法の基礎理論</p> <p>第2章 日本の幼児教育方法の歴史</p> <p>第2部「環境を通して行う教育の方法とはなにか」</p> <p>第3章 環境を通して行う教育</p> <p>第4章 子どもの育ちと物的環境</p> <p>第5章 子どもの育ちと人的環境</p> <p>第6章 子どもの育ちと社会的環境</p> <p>第3部「教育の技術の理解に必要な知識はどのようなものか」</p> <p>第7章 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程</p> <p>第8章 「主体的・対話的で深い学び」と教育方法の関係</p> <p>第9章 幼児理解に基づいた評価</p> <p>第10章 幼児教育・保育における遊び</p> <p>第11章 幼児教育・保育における計画と評価</p> <p>第4部「情報機器及び教材の活用に向けて必要な知識はどのようなものか」</p> <p>第12章 幼児教育・保育における情報機器(ICT)の活用</p> <p>第13章 情報活用能力と幼児教育・保育</p> <p>第14章 幼児教育・保育のこれから</p> | |
| 成績評価の方法 | <p>a.学習方法ごとに「単位認定試験(100%)」により評価する</p> <p>b.その他</p> | <p>○</p> |
| | <p>※なお、「スクーリング・レポート」科目など、複数の学習方法を組み合わせて実施する科目については、スクーリングの試験結果(50%)とレポート・テストなどスクーリングを除く自宅学習の試験結果(50%)を合計して評価する。</p> | |
| 実践的教育を行う授業科目の種別 | <p>a: 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目</p> <p>担当教員の実務経験(経歴・資格等)</p> <p>授業内容との関連性</p> <p>b: 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目</p> <p>学外講師の経歴・資格等</p> <p>授業内容</p> <p>c: 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシ</p> | <p>○</p> <p>私立・公立幼稚園勤務 計10年間、幼稚園専修免許状、保育士資格、社会調査士</p> <p>幼稚園教諭としての経験を活かし、科目のねらいに即し実践に役立つ学修内容とする。</p> |

| | |
|------------------|--|
| トップや実習、研修を行う授業科目 | |
| 実習先・実習の目的 | |